

【変更点①】「企画シートの事業部分」と「協働が効果的かのチェックシート」を★1シートに一本化

【資料2-2】

企画シート

旧

段階	事業名	
企画案作成	①現状と課題	※どのような課題を改善したいのか、課題が生まれた背景と現状を踏まえ記入しましょう。
↓	②目指す状況	※①の課題を達成した後、どのような状況になって欲しいのか、目指すのかを記入しましょう。
↓	③目的	※事業を行うことで目指すことや達成したいことを記入しましょう。
↓	④事業の内容	※③目的を達成するための企画になっているか、確認しましょう。
↓	⑤事業の目標	※成果が数値化できない事業であっても、組織内で共有できるような成果目標を設定することが大切です。第三者が見た時にわかるように、定性的な部分を数値化できないか検討してみましょう。 ※アウトプットだけではなくアウトカムを意識した目標設定が重要です。
手法の選択	⑥協働の必要性	※「協働が効果的かのチェックシート」を活用してください
↓	⑦協働で期待できる効果・成果	※「協働が効果的かのチェックシート」を活用してください
協働事業としての企画案	⑧協働の成果目標	※⑦に対する成果目標を立ててみましょう。どのようにしたらお互いの良さを引き出しあえるかを検討しましょう。
↓	⑨団体に求める専門性	※団体が活動で培ってきたノウハウ・専門知識・専門技術、資格者の人数など、協働のパートナーに求める要素を記入しましょう。
↓	⑩役割分担	○市 ※市ができること・できないこと、団体に求めること・団体ができないこと、を踏まえて⑧の成果目標を達成するための役割分担を考えましょう。 ○団体
↓	⑪予算の積算	※NPO 全て無償で行うボランティアではありません。人件費や交通費は当然発生します。「安価（無償）」でNPO にやってもらう」前提に予算の積算をしないよう注意してください。
↓	⑫事業スケジュール	※協働事業は、パートナーとの相互理解・情報共有が重要ですので、事業の途中に定期的な報告会を設定するようにしましょう。
↓	⑬見直し時期	※協働は「目的を達成するため」「課題解決のため」の手段です。協働で事業を実施したことに満足するのではなく、事業の目的が達成されているかどうか、定期的な見直しが必要です。 ※最初に見直し時期を設定することにより、提案する側、応募する側ともに事業の計画的な提案ができます。

協働が効果的かのチェックシート

旧

内容	✓
事業を実施することで、相乗効果を生み出し、課題解決に結びつくものかどうか（協働することが目的になっていないか）	
市単独で行うよりも、幅広い層へのアプローチ（広報）が可能になるか	
市民ニーズにきめ細かく対応することが可能になるか	
協働事業を通じて、市・NPO・地域・その他の主体との新しいネットワークを築くことができるか	
その他単独で事業を行うよりも効果が期待できること、メリット	
→具体的なメリット：	
協働することによるデメリットはあるか	
→具体的なデメリット：	
○○○○	

★1

企画シート（事業）& 協働が効果的かのチェック

新

事業名	自治・町内会運営のためのハンドブック作成事業
現状と課題	【現状】 ・本市の自治・町内会加入率は80%以上と他市と比較しても高い比率である一方で、次のような課題が挙げられる。（市内183団体） 【課題】 ・活動者の高齢化、会長が5年以内に交代する自治・町内会（全体の約92%）では運営のノウハウが継承されにくい、若い世代が自治・町内会の活動に魅力を感じていない、加入するメリットや必要性、活動内容を伝える手段が分からない。 どのような課題を改善したいのか、課題が生まれた背景と現状を踏まえ記入しましょう。
目指す状況	・自治町内会への加入者増 ・無理のない自治町内会運営が行われ、年齢関係なく活動できる場となっている 課題を達成した後、どのような状況になって欲しいのか、目指すのかを記入しましょう。
目的	自治・町内会活動を活性化させ、持続的な運営を支援するためのハンドブックを作成し、自治・町内会への加入率や活動参加者の増加につなげる。 事業を行うことで目指すことや達成したいことを記入しましょう。
成果目標（数値目標）	・ハンドブックを200部以上作成し、自治・町内会に活用していただく。 ・ホームページで公開し、ハンドブックを広く周知する。 成果が数値化できない事業であっても、組織内で共有できるような成果目標を設定することが大切です。第三者が見た時にわかるように、定性的な部分を数値化できないか検討してみましょう。
事業の内容	自治・町内会の役員向け、未加入又は加入しているが活動に参加していない市民向けの内容のハンドブックを作成する。 事業の目的を達成するための企画になっているか、確認しましょう。

【協働パートナー決定後の追加項目】
具体的にを行うこと・スケジュール・従事者（人数）・実施場所等をお互いに話し合ってお決めください。

協働が効果的かのチェック

先駆性		
専門性	○	見やすいデザイン等の冊子作成のノウハウ
柔軟性		
地域性	○	地域の課題を熟知している団体の経験やノウハウで、より地域の実情に合ったものになる
市民参加	○	一緒に「ハンドブック」を創り上げることで、行政の一方的な押し付けにならないものができる
きめ細やかな対応	○	一律的な行政のアウト等ではなく各自自治・町内会の様々な課題を丁寧に拾い上げることが必要
その他メリット		

最初はこの企画シートを市が作成し、パートナーを適切な選定方法で決定します。
パートナーが決まったら企画シート【★1】事業と【★2】協働をお互いに話し合ってお修正・確定させてください。